

令和6年度「ちば」の文化芸術発信事業

千葉響 × 幕総オケ部

SPECIAL CONCERT

スペシャルコンサート

～千葉が奏でる響き～



千葉交響楽団



千葉県立幕張総合高等学校シンフォニックオーケストラ部



指揮:竹本 泰蔵



ソプラノ:山口 遥輝



テノール:西村 悟

プログラム

【1部】

千葉県立幕張総合高等学校
シンフォニックオーケストラ部

- ★ R.シュトラウス: 歌劇「ぼらの騎士」組曲より
- ★ J.S.バッハ: G線上のアリア
- ★ ディープ・パープル・メドレー ほか

【2部】

千葉交響楽団 × 山口遥輝 × 西村悟

- ★ プッチーニ: 歌劇「ジャンニ・スキッキ」より“私のお父さん”
- ★ ビゼー: 歌劇「カルメン」より“花の歌”
- ★ ヴェルディ: 歌劇「椿姫」より“パリを離れて”
- ★ ビゼー: 歌劇「カルメン」より“間奏曲” ほか

千葉響 × 幕総オケ部

★ アンダーソン: クリスマス・フェスティバル ※曲目は変更になる場合がございます。

令和6年12月22日(日) 開演14:00(予定)

千葉県南総文化ホール・大ホール

【料金】 全席指定 一般 3,000円、大学生以下 無料 ※未就学児の入場はご遠慮ください。

プレイガイド

千葉県南総文化ホール 0470-22-1811
千葉県東総文化会館 0479-64-2001
青葉の森公園芸術文化ホール 043-266-3511
インターネット予約 <http://yyk1.ka-ruku.com/cbs-s/showList>



主催:千葉県

企画運営:



公益財団法人
千葉県文化振興財団

出演者プロフィール

幕張総合高等学校シンフォニックオーケストラ部

シンフォニックオーケストラ部は部員総数200名を超える大所帯で活動しており、管弦楽、吹奏楽、弦楽合奏だけでなく、「オケスト」と呼ばれる幕総独自の演目にも取り組んでいる。

「一人一日立ち」の考え方のもと、ステージでは一人一人が輝こうとする意識をもって演奏やパフォーマンスに臨んでおり、部員同士がお互いに良い部分を吸収し合いながら、音楽力、人間力共にバランスよく成長できる活動を目指している。毎年7月に行う定期演奏会、3月に行うスプリングコンサートでは、それぞれ2日間にわたり多くのお客様にご来場頂いている。その他にも夏には吹奏楽コンクール、秋には日本学校合奏コンクールへの出場、また地域行事への参加など充実した日々を送っている。

竹本 泰蔵(指揮)

1977年に開催されたカラヤン・コンクール・ジャパンで、ヘルリン・フィルを指揮し、第2位に入賞。カラヤン氏に招かれて、ヘルリンを中心に研鑽を積む。帰国後は全国の主要オーケストラに客演し、クラシック・コンサートはもとより、オペラ、バレエ、ミュージカルなど第一線で活躍中。名古屋芸術大学特別客員教授。

特に、映画音楽分野での活躍はめざましく、生オーケストラ演奏と映像をシンクロさせた「ファンタジア シネマ・ライブ」公演(1991年)や、マイケル・ナイマン氏との「ピアノ・レッスン」組曲日本初演、ミッシェル・ルグラン氏との「生誕80年記念ジャパンツアー」での共演、デヴィット・ヘルフゴット氏とのラフマニノフ作曲「ピアノ協奏曲第3番」共演など、歴史的なコンサートにも名を連ねている。映画音楽のCD録音にも積極的に参加。オリジナル・スコアを使用したキングレコードの企画「シンフォニック・フィルム・スペクタキュラー」シリーズ等、その録音数はすでに100曲を超えている。

また映画で使われたサウンドを出来るだけ忠実に復元したオーケストラ楽譜を制作、数多くの名作映画を積極的にコンサートで取り上げている。

さらに、自身の企画・構成による“映像付コンサート・シリーズ”を各地で展開。「ローマの休日」「カサブランカ」など往年の名画はもちろん、「トムとジェリー」やディズニー映画「ファンタジア」などのアニメーション映画も取り上げ、全国各地で好評を博している。

山口 遥輝(ソプラノ)

武蔵野音楽大学音楽学部音楽学科卒業。同大学院修士課程修了。大学選抜学生によるコンサート及び、卒業演奏会に出演。レインボウ21サントリーホールデビューコンサート2017にソリストとして出演。M. グリエルミ、C. サントーロ各女史のマスタークラスにオーディションで選抜され、受講。《秘密の結婚》エリゼッタ、《チェッキーナ》アルミードロ、《第九》ソプラノソリストとして出演。2018年度福井直秋記念奨学金奨学生。2020年、第2回かわさき新人声楽コンクール、入選。声楽を菊池英美、岡崎雅明、佐藤美枝子の各氏に師事。藤原歌劇団準団員、日本オペラ協会準会員。桜蔭学園非常勤講師。(館山市出身)

西村 悟(テノール)

日本大学芸術学部、東京芸術大学大学院修了。イタリア声楽コンクール・ミラノで大賞、リッカルド・ザンドナーイ国際声楽コンクール第2位及び審査委員長特別賞、日本音楽コンクール第1位。

2013年大野和士指揮水戸室内管弦楽団とブリテン「ノクターン」、2014年山田和樹&スイス・ロマンド管弦楽団とメンデルスゾーン「讃歌」を共演の他、佐渡裕&ケルン放送交響楽団「第九」、インキネン指揮日本フィル「大地の歌」、小林研一郎&名古屋フィルとヴェルディ「レクイエム」、高関健&東京シテ・フィル「ファウストの劫罰」、山田和樹マーラーシリーズの第8番等で共演。2016年には大野和士指揮バルセロナ交響楽団にて欧州デビュー。オペラでは「ラ・トラヴィアータ」「蝶々夫人」「仮面舞踏会」「ルチア」「ラインの黄金」「魔笛」に出演。五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。出光音楽賞受賞。藤原歌劇団団員。(千葉市出身)

千葉交響楽団

1985年に「ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉」として発足以来38年間、県内唯一のプロのオーケストラとして、音楽文化の創造・発展を使命とし、地域に根差した音楽活動を続けている。

定期演奏会・特別演奏会をはじめ、県民芸術劇場や各地での演奏会など、毎年およそ50回のコンサートで演奏し、千葉県の音楽文化の向上に努めている。また、千葉県及び各市町村教育委員会との共催事業である「小中高等学校音楽鑑賞教室」や特別支援学校への訪問演奏を、年間100校ほど実施し、児童生徒に生のオーケストラの持つ素晴らしいハーモニーと迫力を届け、音楽教育にも多大な貢献を果たしている。

2016年4月からは山下一史氏を音楽監督に招聘し、同年10月に名称を千葉交響楽団に改め、同氏の指導のもと演奏水準のさらなる向上に取り組み、その新鮮で熱気あふれる演奏は高い評価を得ている。

より多くの千葉県民に「おらがまちのオーケストラ」と親しみを持って呼ばれ、県民が誇れるオーケストラを目指して着実に歩みを進めている。2023年度より新たに君津市でも定期演奏会を始めた。

「ちば」の文化芸術発信事業

伝統文化等の保存・継承に取り組むとともに、文化芸術を通じた自己表現や文化芸術活動の活性化につなげるため、本県の魅力的な文化芸術を感じていただける舞台公演を開催しています。

— 会場では令和7年度にリニューアルオープンを迎える千葉県文化会館に関する特別展示も同時開催! —